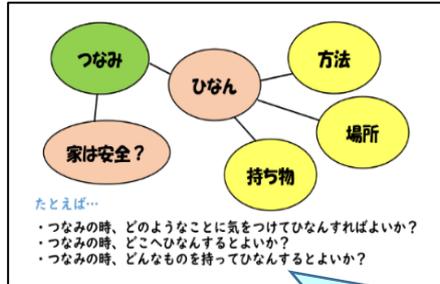
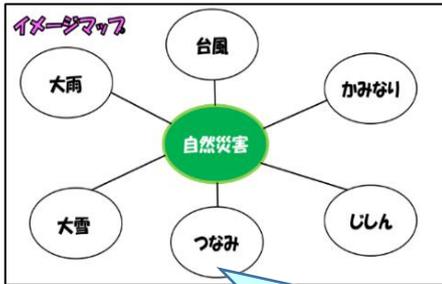


4年 もしもの時にそなえよう

光村図書出版 国語四下 105~111 ページ 掲載

この単元は、参考資料からメモを取り、自分の必要な情報から考えを持ちそれを文章にして書く。テーマ決めはよりよいテーマであれば、調べることや自分の考えを持つことも容易にできる。そこでイメージマップを用いてテーマ作りを行った。なお、作成するにあたり「小学国語学習指導書」「小学国語指導事例集」(光村教育図書)を参考にすることで、この単元が何を意識させ、どんな指導が必要かを確認した。



- 1 テーマを決める
- 2 引用のルール
- 3 出典を書く

イメージマップを用い「課題の見つけ方、調べ方」(4年上132ページ)で既習の「大きな課題を考えてから、その課題について知っていることを書き出す。」

キーワードのままでは問いにならないので、問いを作るための手掛かりとして、「知りたいことの見つけ方、調べ方」(3年上134~135ページ)をもとに、「どのような」「どんな」「いつ」「どこで」を付加することで問いが出来ることを学習する。

テーマ決め以外にも「引用」と「出典」(3年、4年時学習)も再度確認する。

授業の様子と児童の成果物

「引用」と「出典」は、具体例を挙げると解りやすい。



② 元の文章を、そのままぬき出す ↓ ひらがな、かたかな、漢字も同じように書きうつす!

「水があふれた道路では、水の流れて動けなくなるおそれがあるので、早めにひなんする」

松下正一「天気的安全ブック」
海山書店、2019年

天気的安全ブック ← 書名

2019年6月10日 ← 発行年

著者 松下正一 ← 著者名

発行所 株式会社 海山書店 ← 出版社名

郵便〇〇〇-〇〇〇 東京都〇〇区〇〇〇〇

「株式会社」は書かなくてもいいです

著者名「書名」出版社名、発行年

イメージマップ

テーマを決めよう 4年

①イメージマップ…テーマについて知っていることや思いいついたことを書く。

②イメージマップをもとに、問いを作る。最後に?がつくようにしよう。こういうキーワードを使ってもいいです

自分のテーマ
地震が起きてひなんするときどんなものを持っていけばいいか?

考えを伝える文章

児童はイメージマップを使うことで、1時間の授業で全員テーマを決めることができていた。その後、テーマに即した文章を書いた。

わたしは地震のそなえで大切なことはひなん所での生活で必要な物さしんひんすることだと思ひます。

ひんせうはひなん所ではいもつようには生活ができません。いくらひなん所でもいろいろなものがくすれたりしてあんなにかたす。だからヘルメットや非すう食など、さしんひんをするといふことが、例えはかや電灯やかまど、リラックの中に入れておくと少しは生活ができるそつです。

だからもしものときには、フックスのしんひんひんすること大切だとおもひます。

この単元は、問いについて、本文では4行しか書かれておらず、時間も12時間のうち、1~2時間で問いを作り、調べも1~2時間程度である。ここではできるだけ時間をかけずに問いを作ることが必要である。1時間使って問いの作り方を説明する時間はないので、できれば簡単に必要なことのみを押さえておきたい。